

番組「すたあと おおきなかみであそぼう」を活用した本時案

新潟市立新潟小学校 教諭 三星雄大

月
日

活動名 おおきなかみであそぼう

活動のねらい 番組を視聴し、紙で遊ぶときの行為（破る、丸めるなど）を理解した上で、自分の作りたいものを作って楽しむことができる。

本時の展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点
5	1. 番組を視聴する。 「おおきなかみであそぼう」	○ 番組を視聴しながら「いいこと思いついた」など、自分が作りたい物をイメージする子どもがいると予想される。感想を出し合う場面では、そのような子どもの反応を意図的に取り上げ、次の展開につなげるようにする。
3	2. 番組を視聴した感想を出し合う。 ・ぼくは紙を丸めて剣を作りたい。 ・わたしもやってみたくなった。	
5	3. 紙で遊ぶときのワザを理解する。 ・マントは、紙の端をねじっていたよ。 ・杖は、紙を細く丸めていたね。 ・リボンは、小さな紙で巻いていたね。 ・紙を破くこともしていたね。 ・一つのワザだけではなくて、いろいろなワザを使うと面白い物ができそう。	○ 番組内で子どもたちが、マント、リボン、杖を作っていた。それらを作るための行為を理解できるように黒板に書く。 ※例えば、ねじる、破る、丸める、巻くなど。子どもには、行為と言わずに「ワザ」という言い方にして、使いたくなるようにする。
10	4. 自分が作りたいものを作る。 ・ぼくは、紙を丸めて剣を作ろうかな。 あと、盾も作ろうかな。 ・友達と一緒に、破った紙を丸めて玉入れをしてみようかな。	○ 「何をしているの?」「これからどうしようと思っている?」など、子どもが作っている様子に合わせて見通しをもつことができるような声かけをする。「丁寧に丸めているね」と声をかけるなどして、子どもが作っている姿を認めることも必要である。
5	5. 活動をした感想を出し合う。 ・やってみるとすごく楽しかった。 ・今度は、丸めたり破いたりするだけではなくて、テープも使って紙をくっつけたい。	○ 子どもの反応を受け止めながら、みんなで活動することの楽しさを共有する。そして、次の活動につなげるようにする。

☆番組活用の別案

紙の大きさをいくつか用意して、子どもが選択できるようにすることもできます。そうすると、作ることができるもののバリエーションが増え、子どもの活動が広がります。例えば、新聞紙、包装紙、折り紙、八つ切り画用紙、四つ切り画用紙など、紙の大きさや素材の違う紙を用意します。まず折り紙のように小さい紙でワザを共有してから、紙を選択できるようにしていく流れも考えられます。

新型コロナウイルス感染症対策で配慮すること

活動をするときは、なるべく広い場所（体育館や多目的室など）で行いましょう。
教室で行う場合は、換気をしながら行い、子ども同士の間隔を確認してから活動を行います。